



インスピレーションになるう



長井ロータリークラブ



Weekly report

国際ロータリー会長 パリー・ラシン

長井ロータリークラブ会長	遠藤 伴明	第2800地区ガバナー	上林 直樹
幹事	那須 修	第6ブロックガバナー補佐	高橋 眞己
例会日	毎週火曜日 12:15~13:15	例会場	タスパークホテル TEL0238-88-1833
事務局	長井商工会議所内 TEL0238-83-2047	URL	http://www.nagai-rc.jp
E-mail	info@nagai-rc.jp	会報委員	(横澤寿彦 伊藤克也 村田 剛 中島 浩 土屋茂樹)

【4月・特別月間】母子の健康週間月間

例会報告 No.28 (通算 第2781回) 2019年(平成31年)4月9日(火)号

次例会(4月16日)

◎会員卓話 例会場 PM0:15
井上晴雄会員 (化粧坂観音について)

次々例会(4月23日)

◎夜の例会—長井中央 RC 合同観桜会
タスアイリス PM 6:00

前回例会の報告

(ロータリーの目的唱和)



- 当クラブでは、ロータリークラブの意識向上のため定例的にロータリーの目的を唱和している。(尚、遠藤会長は本日の「会長挨拶」でロータリーの目的の一端を述べている。)

会長の時間(挨拶)

会長 遠藤伴明

こんにちは、一昨日の日曜日、福島北ロータリークラブの招待で福島競馬場での移動例会に大山エレクト、

手塚会員、渡部会員、那須幹事と5名で参加してきました。福島は桜も満開に近く天候もよく競馬場の芝の緑もとてもきれいで気持ちの良い時間を過ごしてきました。成績はというと、私は何度かこの移動例会に参加してきましたが長井ロータリーの人間で馬券が当たり儲かった人を見たことがなかったのですが、ついに高額配当を当てた人が出ました。初めて儲かって帰る人を見ました。誰かとは言いませんが、きっと後でニコニコボックスがあると信じています。



話は変わりますが、平成の時代も残すところ二十日あまりとなりました。テレビでも平成を振り返る番組などやっていましたが、バブルがはじけ長い経済の低迷が続き災害の多い時代であったことは間違いないと思います。

そんな時代の中でもロータリーは「職業人と地域のリーダーとネットワークを通じて人々に奉仕し、高潔を奨励し世界理解、親善、平和を推進する」という使命に変わりなく進んできました。この使命はこの先も変わらないと思います。先日も話しましたが我々は、汚れた町のゴミを拾い掃除するのではなく、町を汚さない人間を作るのがロータリーだと、それが職業奉仕だと、そして日本のロータリークラブの創始者の米山梅吉翁は次のようなも言っています。「奉仕をするのは個々のロータリアンでクラブではない、クラブは奉仕するロータリアンを育てる場」と、新しい時代「令和」を迎える今、もう一度ロータリーとは何かと考える良い機会と思います。是非考えてみてください。

幹事報告

幹事 那須 修



○第 16 回理事会

日時：4月9日（火）11:30
内容：5月プログラム 承認

委員会報告

○プログラム委員会
(大道寺信委員長)



5月プログラムについて

5月 7日（火）		休会 祝日週（6日）による
5月 14日（火） PM6:00	中央 会館	（夜例会） 次年度の各委員会開催
5月 21日（火） PM0:15 （理事会 11:30）	タス 例会場	ゲスト卓話 山形工房代表取締役社長 梅津 雄治氏
5月 28日（火） PM0:15	タス 例会場	会員卓話 会長エレクト大山友規憲

○大山会長エレクト

次年度各委員会開催について
日時：5月14日（火）pm6:00
場所：中央会館



ニコニコBOX

尾形和夫会員

- ・遠藤伴明会長 後藤語町長を歓迎して。お忙しい中、ありがとうございます。
- ・那須修幹事 後藤町長お忙しい所お越しいただきありがとうございます。
- ・大山友規憲会長エレクト ゲストを歓迎して。
- ・伊藤克也副会長 後藤町長を歓迎して。
- ・小笠原信吾会員 後藤町長を歓迎いたしました。
- ・斎藤圭央会員 後藤町長を歓迎して。いつもお世話になっております。
- ・中島 浩会員 後藤町長を歓迎して。卓話ありがとうございます。
- ・大道寺信会員 後藤町長卓話ありがとうございます。
- ・塚田弘一会員 後藤町長の思いやり町政に敬意を表します。
- ・渡辺清隆会員 後藤町長を歓迎して。
- ・井上晴雄会員 ゲストを歓迎して。
- ・斎藤喜会員 後藤町長を歓迎して。
- ・横澤寿彦会員 後藤町長卓話宜しくお願ひします。
- ・手塚典雄会員 後藤町長を歓迎して。福島競馬場例会を楽しんできました。ありがとうございました。

※後藤町長より
ニコニコBOX
いただきました。



BOX ありがとうございます。
本日金額：16,000円
累計金額：229,500円
(達成率 32.8%)

ゲスト卓話

飯豊町長
後藤幸平氏



1. 施政方針（H31年度）

1) 枕詞：一隅を照らす人

- ・就任以来、町長が「枕詞」を書いており、本年は司馬遼太郎が最澄の言葉を引用した「一隅を照らす人」とした。（毎日新聞余禄より）

新年を迎えた1月3日の毎日新聞に、次のような記事が掲載されました。

「作家司馬遼太郎が、旅先の山口県萩市で出会った旅館の女性従業員のことをエッセーに書いている。お種さんという。世話焼きで、おにぎりの好きな客がいると聞けば握ってあげる。地元の人からも一目置かれ、身の上相談に乗っていた。お種さんは明るく謙虚だ。司馬は、比較山を開いて天台宗を創始した伝教大師最澄の言葉を引用してこう記した。「伝教大師の、いかにもその篤実な性格を偲ばせる言葉を、私は思い出す。一隅を照らす人こそ、国の宝だ。そんな人は、どこの町にもいる。」彼女のような人がいたからこそ、社会は輝いてきた」と、記述されています。

・飯豊町の「一隅を照らす人」 - 水仙ロードづくりの人々(一例)

一隅を照らす人、それは、地域社会やまちむらのなかに、たしかに存在しておられます。山間の村を訪れる人々を迎える道端の花、水仙ロードづくりに汗を流す住民の皆さん。町内各地で地域を支える人たちの存在。

- ・誰からも言われることなく地域づくりを実践している人に、「水仙ロード」づくりで汗を流している人々がおられる。
- ・ダムに水没しない道路に水仙を植える事業で、中津川、高峰、手の子へと伸びている。ダムの底に沈んだことを忘れない、また、地域づくりの一環で総出でやっていることが光り輝いている。

2) 「SDGs 未来都市」に選定

本町は、平成30年6月、全国29都市の「SDGs未来都市」の一つに選定されました。

「SDGs」とは(※)、2015年9月の国際連合のサミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の略称です。国連加盟の193カ国全てが合意し、2030年までに達成すべき目標として掲げたもので、持続可能な世界を実現するための17のゴール(目標)と169のターゲット(達成基準)から構成されています。

2018年6月 飯豊町は「SDGs未来都市」に選定されました 全国29都市

本町が昭和40年代から一貫して取り組んできた、住民自らが地域のあるべき未来の姿を考え、主体的に地域づくりに参加する「手づくりのまち いいで」。地域資源を活用した自立したまちづくりは、SDGsの理念や目標、世界の指針と重なります。これまで先人たちが築き、守り続けてきた成果は、ここに住む私たち一人ひとりの心に宿っています。



2018年6月 総理大臣官邸

キーワードは「持続可能なまちづくり」。課題が山積する困難な時代こそ、夢を抱き続け、孫へ、ひ孫へ、この美しい飯豊の地を継承していくため、これまでの歩みを止めることなく、新たな「手づくりのまち いいで」に向けて取組を進めていきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標



「持続可能な開発目標(SDGs)」は、発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものとして、日本も積極的に取組を進めています。

- 飯豊町は、「日本で一番美しい村連合」に加盟しているが、その中で「国連加盟193国が申し合せの持続可能な世界を実現するためのゴール」の動きをレクチャーされる。
- それに同意している殆どの大企業より、このままでは所得格差教育格差が広がり環境がおかしくなり、持続可能性の高い次世代にならないと意見がある中、大企業だけ呼応して動き出すのはおかしいと次を申し上げる。
- 「日本で一番美しい村連合」は人口一万人以下の自治体で構成され、小さくてもキラリと光る何らかの財産を大事にする町づくりが多く、持続可能な世界は小さな村こそやり遂げることができたのではと話す。そして、明治以降約150年が経て大量生産性のやり方でなく、長井や飯豊の小さなコミュニティがやってきたことが持続可能なものではと提案し、このままSDGsをやるのはおかしいと話す。
- ゴール17には、三つの視点(経済・社会政策・環

境)がある。自由競争社会で豊で成果があがったが、経済中心の政策でいろんな問題がクローズアップされてきた。これからは順序を逆にしているべき姿の社会を目指しませんか。経済的な格差をなくし、その上で持続可能な社会を目指す内容の話をする。

- 結果、内閣府は飯豊を認証、東北で3つ認証された。

これからSDGsを目指すことになった。



2. 主な事業

(新産業育成事業)



新産業集積事業

山形大学xEV飯豊研究センターを軸とした「飯豊電池バレー構想」は、リチウムイオン電池関連企業誘致による蓄電デバイス関連産業集積を図るとともに、既存企業の事業拡張を支援していきます。新たにより質の高い仕事づくりや雇用の場を創出し、EV(電気自動車)などの分野に精通した高度技術人材を育成していきます。この組により、若年層の転出抑制や首都圏から地方への人の流れをつくり「飯豊電池バレー構想」の実現と地域経済と雇用確保の好循環により、町の経済的な自立を目指していきます。

- 和光電気撤退敷地に電池事業を誘致。山大7億、本町8億でxEV研究所を立ち上げる。
- 実際の町民への成果はと批判を受け、その研究成果を基にした産業を育てることとした。

(貸工場整備事業)

こだわりの産業づくり
可能性をのびと開

14億3,540万円

貸工場整備事業

飯豊で育てた人材などを地元や地域内への雇用に結びつけるため、2020年中の稼働開始を目指し東山工業団地へ新産業集積事業貸工場新築工事に着手します。

山形大学xEV飯豊研究センターなどで開発された製品の製造工場誘致を実現するため、共同研究企業と連携して取組を進めてまいります。



完成予想図



(SDGsのゴール 8=動きがいも/経済成長も
11=住み続けられるまちづくり)

- その事業は電気自動車関連です。そのコアな部分、バッテリーのある主要部材を作るため、xEV研究所の施設を利用できる関連工場に、貸し出す工場をつくる。
- 過疎債地方創生等々利用し、町で20億、利用会社40億規模で東山工業団地に着手する。

- ・当団地は 287 号線、113 号線が交差する場所で、いずれ飯豊と長井が連携し一つの経済圏生活圏を育てなければならないと市長と相談している。貸工場整備事業はその一つの事業と考えている。



(専門職短期大学整備事業補助金)



3億5,000万円
専門職短期大学整備事業補助金

山形大学、山形銀行、学校法人赤門学院、飯豊町によるプロジェクトチームを編成して、専門職短期大学の開学に向けた準備を行います。企業が求める人材像やどのような人材を採用したいのかなどを把握し、その人材を育てるために必要なカリキュラムの編成や実務家教員の確保に努めています。2021年4月開校に向けて、学校法人赤門学院が文部科学省への認可申請の準備を進めるとともに、町は、専門職短期大学整備費用に対する補助金の交付を行います。

- ・飯豊電池バレー構想の一環で、山大で世界中の電気自動車 20 数台を購入し、分解解析し、性能試験をやっている。
- ・この分解等を手伝い頂いた学校法人赤門学院（整備工育成専門学校・自動車運転教習所兼業）より、隣接する専門的短期大学設置プランを受け、連携することとなった。
- ・飯豊、長井は自動車関連のメカトロニクスが育っており、人材供給し、より付加価値の高い、組み立てだけでない独自技術にて生産出荷することを目的として、町は 3.5 億円の補助金交付を行う。
- ・文科省の認可（1 学年 40 名計 80 名）を 10 月に申請予定である。

(家畜排せつ物を利用したバイオガス発電事業プロジェクト)



1億8,200万円
家畜排せつ物等を利用したバイオガス発電事業プロジェクト

米沢牛の約4割を生産する主産地として確固たる地位を築き上げる飯豊町。畜産業をさらに発展させるため、民間事業者が主体となり、郡山地区において「家畜排せつ物等を活用したバイオガス発電事業プロジェクト」に取り組みます。畜舎から出る家畜排せつ物をバイプラインで直接バイオガスプラントに導入し、メタンガス化し発電、処理するものです。臭気を抑制するこの手法は、畜産業の環境改善も目的とした取組です。

- ・東北おひさま発電（株）が眺山にて行う発電事業で今月認可済であり事業がスタートする。

- ・米沢牛 4 割の生産地であるが、子牛の生産を併せ行い米沢牛の頭数を増やしていく。（椿住宅団地整備事業）



イメージ写真
 にぎわいあふれるまちづくり
 緑をつむぐ

1億5,824万円
椿住宅団地整備事業

旧飯豊農業高等学校飯豊分校跡地に整備を進めている住宅分譲地「エコタウン椿」が、2019年度に完成、分譲開始します。図が示す次世代基準の省エネ型住宅よりも、更に高性能かつ環境や健康にも配慮し、県産木材を使用した「飯豊型エコハウス」を、町内事業者が建設します。「エコタウン椿」では、低エネルギー型の新しい暮らしと、地域経済の循環を促しながら、快適で自然と調和した「飯豊らしい豊かな暮らし」を表現していきます。

- ・飯豊町は環境重視型をベースに付加価値の高い産業をおこし人材と働ける場をつくっていく。そして、少しでも人口減少の流れを止めなくてはならないと考えており、地元で永住できるよう、住宅団地整備事業を行う。10月より販売を開始する。

3. おわりに

- ・目標とするところは、できるだけ地域の方で人を育て、英知をはかり、将来に種を播く事業を行政でなければできない事業を、そして民間企業の支援を合わせて行い地元地域の生産性の高めることをやっていきたい。
- ・成功するかはこれからの展開であるが、これを進める自治体でありたいと考えている。

水仙ロード



出席報告

委員長 中島 浩

- ・本日の会員数26名、全出席数21名で出席率は80.77%です。
- ・前々回（3月26日分）の出席率は75.00%に確定します。



本日の食事

